

2025 陸上競技ダイジェスト

「第 78 回兵庫県高等学校陸上競技対校選手権大会神戸地区予選会」

5 月 10 日（土）～5 月 11 日（日）

ユニバー記念競技場

兵庫県高体連陸上競技部 広報委員会

神戸地区予選会は 5 月 10 日（土）・11 日（日）の 2 日に渡ってユニバー記念競技場で 42 校 899 人が参加して熱戦が行われた。初日は明け方までの雨は止んだが、湿度が高く、時折風が強く、また風向が変わる天候であり、風の影響を受ける競技は難しいコンディションとなった。女子円盤投では松浦実音（須磨東 2）が 38m16 を記録し、**神戸市高校新記録を更新**した。2 種目制覇となったのは男子 100m と 200m を制した山本柊希（滝川第二 3）、男子 110mH と 400mH 平岡大輔（滝川第二 2）の 2 人だった。昨年に続く連続制覇は男子 200m の山本柊希（滝川第二 3）、男子 1500m 梅田大陸（須磨学園 2）、女子 800m の東はる（須磨学園 2）、女子 100mH の二階堂咲（山手 2）、女子やり投の稲田桃子（神戸科技 3）の 5 人だった。神戸地区の特別枠該当者は 12 種目 9 人であった。多くの該当者が棄権する中でも「開け未来の扉中国総体 2025」へ向けて 1 秒、1cm を争う混戦になった競技が多くあった。

なお神戸地区は対抗戦方式をとっておらず、リレー種目は記録会形式で行われている。

【男子】

ハンマー投では県大会出場の標準記録 35m を超え、自己ベストを更新する記録でこの種目を制したのは田畑祐陽（兵庫工 3）。練習投擲 2 回の内 1 回はフィールド外に落下したが、1 回目に 43m36 を記録し、そのまま逃げ切った。顧問の小玉先生は「2 年生からハンマー投げを始め、昨年までは 38m30 がベスト記録だったが、練習で『今できること』に集中して取り組んだ成果が出た」と語った。

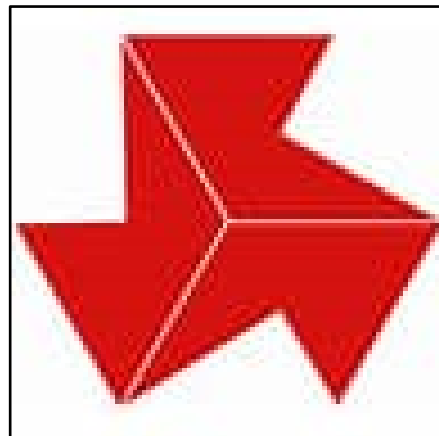
円盤投を制したのは西岡蒼留（神戸第一 2）。顧問の岩田先生は「ファールせず、6 本全て有効試技になり、また 3 本目までに優勝を決め、6 本目に記録を伸ばしたという理想的な試合結果だった。彼が課題にしていた内容を 1 ヶ月前に試したが失敗した。今回はその課題をうまく克服したので、次の県大会に繋がる内容だったと思う」と語った。

1500m では昨年 1 年生ながら全国大会に出場し、3 分 48 秒 45 の自己記録を持つ梅田大陸（須磨学園 2）が実力を発揮して 3 分 52 秒 24 で勝利した。その実力者梅田に最後まで喰らいついたのが東海成（須磨学園 2）で、3 分 52 秒 91 と好記録で 2 位となった。

400m において前半からスピードを上げ、47 秒台の好記録で他を圧倒したのは梶原元希（滝川第二 3）。「1 次予選では思うように体が動かなかったが、2 次予選ではしっかり体が動いてくれた。後半に動きが小さくなったのが課題」と語った。

三段跳においてエントリーランキング 2 位ながらこの種目を制したのは板野結希（滝川 2）。1 回目は

全国高体連のマーク



K R A F T…力

K U N S T…技

K L A R H E I T…明朗な精神

マークの由来…ドイツ語の 3 つの K の頭文字をとったもの。「若い力とわざと明朗な精神」を象徴し、真紅の色彩は「高い理想」と「希望に燃える若人の情熱」を象徴している。



助走を短くし、13m69 でトップ 8 を確実にし、「2 回目以降助走を長くし、攻めていった」結果、2、3、5 回目はファール。最終 6 回目は「ファールになってもいい」という気持ちで跳躍し、14m07 と記録を伸ばした。「今回の大会は助走のリズムが前の大会よりもかなり良くなった。しかし、ホップからステップのつながりがうまくいかず、ステップがうまくいかない跳躍が増えてしまったので基礎ドリルをもっと重点的に取り組んでいきたい」と語った。

110m H は風が強く吹く中のレースとなった。その難しい中で 1 位となったのは平岡大輔（滝川第二 2）。「あんまり調子が良くなく、スタートでも自分の良さを発揮できなかった。自分の思う通りのレースはできなかった」と言うが、後半加速し、同じ滝川第二で同学年の坂本愛生との接戦を制した。

3000sc はスタート直後から梅本陸翔（須磨学園 3）、大柿司（須磨学園 2）、森秋愛（神港学園 3）の 3 人が争う展開になった。その中から 9 分 10 秒 65 の記録を持つ実力者、梅本が後続を突き放し、そのままフィニッシュするかと思われたものの、2000m を通過後に転倒。ペースが落ちると、大柿が逆転し、1 位でフィニッシュした。

5000m は藤岡孝太郎（須磨学園 3）が 400m を 1 分 07 秒、1000m を 2 分 48 秒で引っ張るハイペースでレースが展開。この時点で先頭は須磨学園の 3 名のみに絞られた。ペースは少し落ち着き、3000m を 8 分 40 秒で通過。3600m 付近で梅田大陸（2）が離れ、4000m を通過後、森貞翔太（2）も離れ、藤岡がそのままトップを維持し、14 分 29 秒 46 でフィニッシュした。

800m はスタートから東海成（須磨学園 2）が先頭に立ち、盛本頼晴（夢野台 3）がその後ろにぴったりつく展開。1 周目 56 秒で入ると 2 人が後ろを引き離し、マッチレース。東はペースを維持し、1 分 54 秒 96 で 1 位となった。

【女子】

混戦となった**走幅跳**。その中で唯一 5m40cm 台を記録したのが石田美咲（山手 1）。風が一定でなく、足合わせが難しい中、5 回目に自身のベスト記録を 2 年ぶりに更新する 5m42 を記録し、1 年生ながら 1 位となった。2 位にはランキングトップだった松岡愛菜（山手 3）。踏切板に足が乗らなかったものの実力を発揮して 2 位に入った。

砲丸投は小南結（長田 3）が 1 位となった。「1 投目でファールになり、集中力が乱れた」というが、2 投目でトップに立つと、「バランスが崩れながらも力を出せた」と 4 投目、5 投目と記録を伸ばし、10m89 で勝利した。今後は「強い心で競技に臨みたい」と語った。

朝方までの雨でサークルのコンディションが良くない中で行われた**ハンマー投**。県大会出場の標準記録 30m を超え、2 人による争いを制したのは小川まひる（須磨東 2）。「1 投目は安定性を重視して 3 ターンで確実に決めていった。それ以降は 4 ターンに増やしてプレーを重ねていった。」と言い、2 回目に 36m59 を記録し、5 回目に 36m94 と記録を伸ばして勝利した。「サークルの状態が原因でオーバーターン気味になってしまい、回りにくさで加速を重ねることができず、そこから一度しかロングを出すことができなかった。足の切り替えや左へのファールが目立つプレーとなってしまったので、ハイポイントとローポイントの意識やラインの意識など改善できる部分を習得していきたい」と語った。

3000m は種知里（須磨学園 3）がスタートから後続を離し、終始単独走。最初の 1000m は 3 分 7 秒で通過するもその後はややペースを落とし、9 分 46 秒 38 でフィニッシュした。2 位には同じく終始単独走になった杉本麻椰菜（夢野台 2）。3 位はラスト 1 周を 5 人による競り合いを制した村上咲智子（長田 3）が入った。

100m において向かい風 2.1m の中、力強い加速で 12 秒 03 の好記録で 1 位になったのは福田花奏（滝川第二 1）。専門は 100mH であまり 100m の練習はしていなかったと言うが「1 次予選で向かい風 3.2m の

中 12.37 が出て、二次予選もこれはいけるかもと思った。ハードルの練習と 100m の練習がうまく噛み合った。同じ高校の強い選手と練習をして、周りの先輩の選手が気にならずに走れた。先輩方に勝てて良かった」と1年生らしく謙虚に語った。

57 秒 97 で **400m** を制したのは岡田美紅(滝川第二 2)。ペースを最後まで落とさずにレースを展開し、逃げ切った。「1 次予選で思ったような結果が出ずに焦った。ラストのカーブで焦らずに自分のペースを保っていったところが良かった。前半スピードをさらに上げることを意識していきたい」と語った。2 位には後半追い上げた久保紗桜里(須磨友が丘 3)が入り、記録は 58 秒 33 とこちらも好記録だった。

神戸市高校記録を更新する 38m16 で**円盤投**を制したのは松浦実音(須磨東 2)。1 回目にこの記録をマークし、優勝を決めた。「2 回目以降記録を伸ばせなかったことが課題」と語った。2 位には砲丸投を制した小南が4回目に大きく記録を伸ばして入った。

三段跳は山手によるワンツースリーとなった。制したのは鈴木琴水(山手 3)。風を読むのが難しく、また足を少し痛めていたことも影響してかベスト記録には届かなかったものの 11m62 で制した。顧問の森先生は「12mジャンパーに徐々に近づいている」と今後の飛躍に期待していた。2 位には1年生ながら前田彩友乃(山手 1)が 11m27 で入った。踏切板にのっていない跳躍での記録でさらなる記録向上が期待できる競技となった。

タイムレース決勝で行われた **400mH** を制したのは奥谷紗良(須磨東 2)。前半からスピードを上げ、そのまま逃げ切った。「いつもより前半スピードを出すことができ 17 歩で走る台数を増やすことができた。4 台目歩数が合わずハードルとの距離が詰まって少し減速してしまったので歩数の調整をしていきたい。1 台目までの入りがすごく遅いのもっとスピードをつけることができるよう練習したい」と語った。

200m をベスト記録を更新する 24 秒 77 で制したのは西岡花菜(山手 1)。カーブの出口付近でインレーンから伊藤紗英(滝川第二 2)が迫ると、さらに加速し、後続を振り切った。